

2020年 1月

図書室より「新着図書」のお知らせ

☆印はリクエストいただいた本です。

☆ 『落日』 湊かなえ

新人脚本家の甲斐千尋は、新進気鋭の映画監督・長谷部香から、新作の相談を受けた。「笹塚町一家殺人事件」…15年前に起きた、判決も確定しているこの事件を手掛けたいという。この事件を、香は何故撮りたいのか。千尋はどう向き合うのか。「真実」とは、「救い」とは、そして「表現する」ということは。絶望の深淵を見た人々の祈りと再生の物語。

☆ 『祝祭と予感』 恩田陸

「蜜蜂と遠雷」

待望のスピノフ短編小説集

入賞ツアーのはざま、亜夜とマサルとなぜか塵が二人のピアノの恩師・綿貫先生の墓参りをする「祝祭と掃苔」。芳ヶ江国際ピアノコンクールの審査員ナサニエルと三枝子の若き日の衝撃的な出会いとその後を描いた「獅子と芍薬」など全6編。大好きな仲間たちの知らなかった秘密…。

☆ 『ライオンのおやつ』 小川糸

余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことを決めた。そこでは毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつの日」があった…。生きていれば、いつか必ず訪れること。それまでは、いとおいしい日々を味わいたい。

☆ 『平場の月』 朝倉かすみ

山本周五郎賞受賞!! 直木賞候補作品

50年生きてきた男と女には、老いた家族や過去もあり、危うくて静かな世界が縺々と流れる。心のすきまを埋めるような感情のうねりを、求めあう熱情を、生きる哀しみを、圧倒的な筆致で描く大人の恋愛小説。

シリーズ累計

100万部の大ベストセラー
待望の続刊!!

『ツナグ 想い人の心得』 辻村深月

一生に一度だけの死者との再会を叶える使者「ツナグ」。長年に亘って務めを果たした最愛の祖母から歩美は使者としての役目を引き継いだ。7年経ち、会社員として働きながら依頼を受ける彼の元に、顔も知らない父親に、事故死した幼い娘に、片思いしていたあの人に、もしも会えるなら… もう一度あの人に会えるとしたら、あなたは何を伝えますか？